

4月の下旬ぐらいからだろうか。朝、運動場では、学年関係なく多くの子どもたちがドッジボールをしている。1年生もいれば、6年生もいる。あっ！また誰か走っていったと思えば、ドッジボールの中に交じっている。昨年度はなかった光景である▼大人数でのドッジボールはどのようにして始まっているのだろう。先生方に聞いてもわからない。数人の子に聞いてみたけれども、満足した答えは返ってこない▼大体の見当はついていたが、その予想が当たっていれば、とても素敵な光景である。▼数日間の観察と5年生の男の子との会話の中で、その予想が当たっていることが確信できた。数人のボールを持った子の受け合から始まり、はさみっこに発展していく。やがてどんどん人が集まってきて、ある程度集まるとドッジボールが始まるのである▼その5年生の子の何気ない一言に感動した。「何人に集まってきてもよいように、コートは大きく書いてある。」みんながどんどん集まってきてみんなでドッジボールをするということがなかば当たり前になっているようである▼当たった！当たってない！などなど・・・多少のもめごともあるようだが、ほぼ毎日この光景は続いている。サッカーをやっている子どもたちもいる。ブランコに乗っている子、走り回っている子・・・そうかと思えば、草取りをしている子もいる。阿下喜小学校の朝は、おもしろい。